

スマイル&ハート

浜田医療センター情報誌

冬号



(平成23年1月)

◆発行責任者◆

浜田市浅井町777番地12

浜田医療センター院長 日野 理彦

TEL 0855(25)0505

h-page

<http://www.hamada-nh.jp>



昨年12月24日、入院している患者さんを対象にクリスマス会を開催しました。院内おおぞら保育園児の歌や踊り、また浜田市民合唱団の皆さんに合唱していただきました。職員も温かい気持ちになれたと同時に早く回復されますようにサンタさんをお願いしました。

浜田医療センターの理念

「心のこもった、情のある医療」

基本方針

1. 健康を守る 2. 高度の医療 3. 地域連携

患者さんの権利

- 人格・価値観が尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を得る権利
- 自己決定の権利
- 個人情報を守られる権利

◇ 目 次 ◇

年頭のご挨拶	2	発熱外来棟完成	10
腫瘍内科を開設しました	3	夜間・救急連絡通路整備	10
脳ドックを受けてみませんか？	4	地域医療連携室からお知らせ	11
シリーズ認定看護師	6	一周年記念講演 市民公開講座	11
栄養サポートチーム(NST)の紹介	8	看護学校だより	12
こんにちは 研修医です	9		

年頭のご挨拶

国立病院機構浜田医療センター
院長 日野 理彦



新年おめでとうございます。本年も浜田医療センターに対しまして温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国の先行きに不安を持たざるを得ない状況で、良い医療の確保は困難になって、日本のどこでも同じ医療が受けられる時代ではなくなりつつあるかもしれません。時代は急速に動いています。医療・介護は社会保障の根幹をなすものでありますが、制度は名ばかりになりつつあって、実態が伴わなくなっているようです。医療の確保に努力した地域にのみ良い医療が実現できる時代になっています。医療の不均衡が生まれています。

浜田医療センターは現在の浅井町に移転・新築して一年が経ちました。鳥根県、浜田市、市民の皆さんの大きなご支援を頂いて完成し、大病院に匹敵する施設と機器を持たせていただきました。健診センター、緩和ケア病棟、リハビリ病棟が新設され、救命救急センターは拡充されました。PET-CT1台、CT2台(64列と16列)、MRI2台を備えています。新生浜田医療センターになったのです。この一年で診療機能は充実し、レベルアップしています。鳥根県西部の中核病院として、レベルの高い総合医療センターになるべく着実に進んでいます。診療圏は拡大して、より広い地域から患者さんが受診されるようになりました。時には、入院ベッドが足りないこともあります。しかし、まだまだ十分な態勢にはなっておりません。医療スタッフの不足は続いています。

浜田医療センターはこれまで以上に人材育成に力を注いでいきたいと考えています。まだまだ十分ではありませんが、医師の業務を軽減して研鑽に時間を使えるようにし、学会や研究会に出席しやすくする支援もしています。国内外の長期研修を可能にする制度も作りました。看護師は認定看護師、専門看護師、特定看護師、助産師、看護教員などになれるよう支援

制度を作りました。薬剤師、栄養士、放射線技師、検査技師などの全てのメディカルスタッフのキャリアアップを支援しています。病院の機能とレベルは全て医療者のレベルに係っています。人材育成こそが良い病院を作り、患者さんから信頼される病院を作る道だと思います。

学生を教育し、医師や看護師などのメディカルスタッフが研修でき、臨床研究もできるレベルの高い総合医療センターが鳥根県西部には求められています。浜田医療センターは教育・研修・臨床研究を実践できる病院になりつつあります。更に発展させて地域の皆さんに信頼され、働く医療者にも魅力のある病院を目指したいと思います。



腫瘍内科を開設しました

院長 日野 理彦

当センターでは平成22年11月より腫瘍内科を開設しました。腫瘍内科は各種の抗がん剤による薬物療法を中心とした治療を行います。抗がん剤は従来の化学療法剤の他に、近年は抗体療法や分子標的療法に著しい進歩がみられて大きな効果を期待できる時代になりました。そのような時代の要請として、多種類の抗がん剤を適切に使いこなせる臨床腫瘍学専門医の育成がすすめられています。鳥根大学医学部附属病院腫瘍センターは臨床腫瘍学専門医の育成施設です。そのご協力を得て、当センターにも腫瘍内科専門医を迎えて腫瘍内科を開設できることは鳥根県西部地域のがん診療の向上に資するものと思います。鳥根大学医学部附属病院腫瘍センターの分室として大学と連携して鳥根県西部のがん患者さんが治療を受けることができるようになりました。

当面は鳥根大学医学部附属病院腫瘍センター長 鈴宮淳司教授に月2回(第2火曜日午前、最終木曜日午後)、来院して頂きます。予約制となっていますのでスタッフに御相談下さい。

脳ドックを受けてみませんか？

脳ドックの基礎知識

脳ドックは昭和 63 年頃より日本で始まり、脳卒中を中心とした脳の病気を事前に予防することを目的とした検診です。

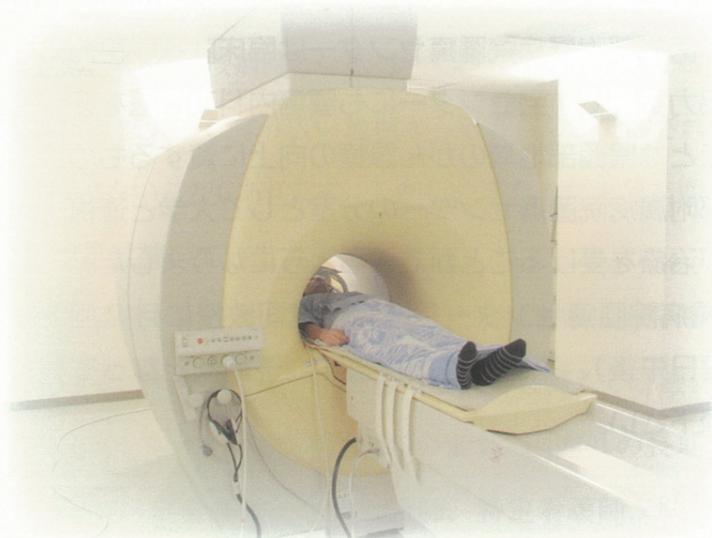
脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などは突然生命を危険にさらしたり、重い後遺症をもたらすことが少なくありません。プロ野球読売ジャイアンツ元監督長嶋茂雄さんやサッカー日本代表元監督オシムさんが脳梗塞になったり、他にも多くの著名人の方が亡くなっています。また、多くの方が後遺症で苦しんでいます。これらの病気は発症してからでは治療が遅くなってしまいます。事前にその兆候を見つける事で安全な治療が可能となります。それが脳ドックの大切な役割です。

脳ドックを受けていただきたい対象者

1. 積極的な対象者は中・高齢者の方
2. 脳卒中の家族歴・高血圧・肥満・喫煙などの危険因子を持っている方

脳ドック (MRI 検査) を受けるに当たっての注意事項

体内に金属がある方、閉所恐怖症の方は、MRI 検査ができない場合がありますので、事前にご相談ください。



脳ドックの内容

脳ドックと聞くと頭の MRI だけと思われる方もいらっしゃいますが、身体の基礎的な検査、脳に関係のある検査といろいろと検査させていただきます。

1. MRI・MRA検査

高性能 (1.5 T) MRI 装置により頭の断面をスライスし、脳の状態を調べます。
MRA は造影剤を使わないで頭の血管系の異常 (動脈瘤・閉塞・狭窄等) を検査します。

2. 頸動脈超音波検査

頭に通じる首の動脈をエコーで観察し、動脈硬化の状態を調べます。

3. 血液一般検査

肝機能・腎機能・脂質・糖関連・貧血など、一般ドックなみの検査を行います。

4. 眼底・眼圧検査

5. 胸部レントゲン検査

6. 心電図検査

7. 肺機能検査

脳ドックで見つけることのできる病気

自覚症状のない脳梗塞 脳動脈奇形 等
未破裂動脈瘤 もやもや病
脳腫瘍

何らかの異常が発見されても、多くはすぐに進行したり悪化したりするものでなく、経過観察となることがあります。生活習慣の改善をし、食事・運動に気をつけることで病気の進行を抑えることができます。

健診センターでは各種ドックをはじめ、いろいろなオプション検査を行っており、脳ドック受診後の食事・運動指導に関してもご協力いたします。

一日一日を健康で過ごすために、家族の笑顔のために、40 歳を過ぎたら一度脳ドックを受診してみたいはいかがでしょうか。

健診センター 脳ドックの ご案内

検診日 毎週月曜日～金曜日 (祝祭日・年末年始は除く)

検診費用 脳ドック単独 **43,050 円**(税込)

脳ドックオプション **28,350 円**(税込)

オプション料金は、他の健診をお受けになった場合、上記金額が加算されます。

ご予約・お問い合わせ

健診センターにご連絡ください。

電話 0855-28-7700 FAX 0855-28-7080



シリーズ

認定看護師

感染管理認定看護師 副看護師長 渡邊 正美



わたしは、昨年6月から感染管理認定看護師になりました。

「感染管理認定看護師って何をする人なの…?」

と言いますと、

1. 術後の傷口やカテーテル留置部位を観察し感染兆候がないか調べる。
2. 医師や薬剤師、検査技師と病棟をラウンドして、適切な感染予防策が行われているか確認し指導を行う。
3. 院内感染発生時に対応し、現場に予防策の指示を出し、確認する。
4. 院内や地域に対して教育研修会を実施する。
5. 現場からの感染対策に関する相談にアドバイスする。
6. 流行る可能性のある感染症についての情報を提供する。

上記のことを感染対策チーム（ICT）のメンバーである医師や薬剤師や検査技師と協力して行っています。

病院は、患者さんの病気を治すためのところですが、治療や病状によっては、感染症を発症する可能性があります。また、病院で働く人々も感染の危険があります。

活動を始めたばかりで、まだまだこれからですが、患者さんをはじめ病院を訪れる全ての人を感染から守り、医療従事者自身も感染から守るための環境づくりをめざしています。



活動の1場面



院内手洗い研修会で
手の汚れを自分で確認
してもらっているところ



こんなに
汚れていた手が…

正しく手洗いすることで
こんなに綺麗になりました!!



(特殊な液をつけています)

H22.11.3

BB 大鍋フェスティバル

島根県内の認定看護師と一緒に
健康相談・血圧測定・血糖測定
を行いました。



三三感染情報

インフルエンザが流行る時期です

インフルエンザはかかった人の咳・くしゃみ・唾液と一緒に放出されたウイルスをのどや鼻から吸い込むことで感染します。また、唾液が付着した手に触り、その手を口に持っていくことでも感染します。

ワクチンを接種することも大切ですが、**手洗いとうがい**が感染対策の基本です。咳や寒気など症状のある方は、早めに受診し、外出時にはマスクをつけるようにしましょう。



栄養サポートチーム (NST) の紹介

NSTとは・・・栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施し、栄養管理に関する啓発活動を目的とした各職種の集団による院内医療チームです

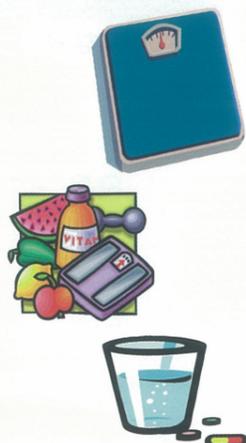
当センター、平成17年3月よりNSTが稼動しており、日本静脈経腸栄養学会より、稼動施設として認定されています。

栄養不良の状態が継続すると、筋蛋白の崩壊を招き体重が減少します。また、創傷(きず)の治りが悪く、免疫力が低下し感染症にかかりやすくなります。その結果、入院期間が長くなったり、入院前と同じ生活ができなくなるなどの不都合な状態に繋がります。そこで、NSTは栄養不良の患者さんに対し、適切な栄養管理ができるように、専門的知識をもった多職種(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師・リハビリ士など)からなるチームをつくり、回診し、栄養状態改善のための取り組みをおこなっています。

大事なことは、患者さんが必要な栄養を口から食べていただくことで、可能な限り、嗜好にあわせ、食べやすい形態やメニューを工夫したり、補助食品を使用したりしています。どうしても、十分口から食べられない場合は、静脈栄養(点滴など)や経管栄養(胃ろうなど)を併用しながら、食べる訓練を行います。

《ポイント》

- ・身体測定、血液検査などで総合的に栄養アセスメント(評価)を定期的に行い、栄養不良の状態に陥らないようにする。
- ・個々に必要な栄養量を必要な栄養素配分で確保する。
- ・過剰摂取(メタボリック)にも注意する。
- ・患者さんや家族の方が在宅で安全に施行できるように在宅栄養管理の知識や技術もあわせてチームでアプローチする。



NST ミーティング：毎週水曜日

に開催しています。

NST 委員会・勉強会：第1水曜日



看護師長 佐々木富貴子

こんにちは 研修医です

皆様、研修医の三島千明と申します。今回、浜田医療センターの初期研修医についてご紹介したいと思います。



当センターには合計10名の研修医が在籍しております。私たちは医師免許取得後、初期臨床研修を行っています。初期臨床研修は2年間義務付けられており、内科系、外科系、さまざまな診療科で修業します。2年間の初期臨床研修修了後は、それぞれの希望する専門分野に分かれてキャリアを積んでいきます。

さて、今年度10名という研修医数は、島根県内の医療機関を見ても大学病院を除けば最大規模の人数です。出身大学は島根大学、鳥取大学、産業医科大学からと様々です。

当センターでは、病棟での業務に加えて、日中から準夜勤におけるER(救急外来)は研修医が最初に対応します。まず、研修医が患者さんを診察し、検査をオーダーした後に各診療科へプレゼンテーション・コンサルトを行います。当センターには地元の方だけでなく、島根県西部全体からER受診があります。救急専門の医師が不在ですが、各診療科の先生方に指導して頂きながら、症例や手技を経験しています。

研修医としての第一歩を踏み出してからあっという間に一年目の大半が過ぎました。指導熱心な先生が多く、非常に充実した日々を送っています。研修医として主治医と患者さんの間に立って、患者さんの気持ちや不安に思われることを出来るだけお聞きし、少しでもお役に立てるよう精一杯頑張りたいと思います。

島根県西部は医師不足が深刻です。卒後、島根県に残ることに私も当初迷った時期もありましたが、こういった医療事情の現場を体験することは自分の将来にとって非常に重要な経験だと思っています。まだまだ医師としても未熟ですが、まず、患者さんに信頼してもらえる、スマイルを忘れない医師になりたいと思います。

当センターへお越しの際に何かお困りのことがありましたら、ぜひ研修医にも気軽に声をおかけください!

今後ともどうぞよろしく御願いたします。

臨床研修医 三島 千明

発熱外来棟完成

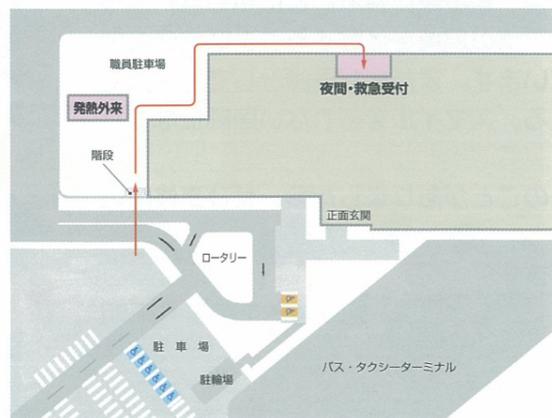
平成 22 年 10 月末に、発熱外来棟が完成しました。プレハブの軽量鉄骨で延べ床面積は 67.48㎡で、診察室、待合室、トイレを完備し、感染を防ぐ空気清浄機を設置しています。場所は、感染拡大を少しでも防ぐため、病院西側の職員駐車場の一角に設置しています。車に乗ったまま医師の診察を受ける「ドライブスルー方式」の受診も可能となっています。設置費用は、島根県発熱外来施設整備費補助金を活用させていただきました。今後発生しうる新型インフルエンザ等感染性の強い疾患に対する診療設備が整いました。

企画課長 西垣 和良



★ 夜間・救急連絡通路整備 ★

病院玄関は、施設の管理保安上 21 時～翌日の 6 時まで閉鎖しております。そのため、従来は、その時間帯に急患等で病院にお越しになられる方は、外来駐車場から病院西側のパチンコ店横の道路を通らないと夜間・救急入口へ行くことができませんでした。この度、本館西側に夜間・救急連絡通路を整備し、患者さんの歩く導線を軽減しました。長い間ご不便をおかけしましたが、上記夜間帯に病院に来られる場合はご利用下さい。



案内板は、夜間時には照明が点灯し、初めて訪れた方にも分かりやすくなっています。

経営企画室長 栗元 寛幸



地域医療連携室からお知らせ

第 5 回地域医療従事者(看護・介護) 合同研修会を開催しました

平成 22 年 10 月 21 日(木)、今年度第 5 回目の研修会として、「呼吸理学療法の実践 ～排痰介助法を中心に～」と題して、当センターの細井理学療法士長による講義と実技指導を実施しました。効果的かつ苦痛のないように胸部を押さえる感覚を、直接手で感じとったり、研修生自身が患者役をして、圧迫される感覚と効果的に実施された時に安楽になる感覚を体験学習しました。参加者は 30 名で、研修後のアンケート結果より、「実技を体験してより一層理解が深まった」「圧迫の力関係や効果的な体位がよく分かった」「実際の先生の手技を感じ取れた、先生の技術はすばらしいと思った」など参加者からのご意見をいただきました。お忙しい中、多数のご参加をありがとうございました。

第 6 回研修会のご案内

日時 平成 23 年 2 月 10 日(木)
テーマ NST 大会合同研修会「PEG(胃ろう)の適応と合併症」
講師 岡本英司 消化器内科医長
 多数のご参加をお待ちしています

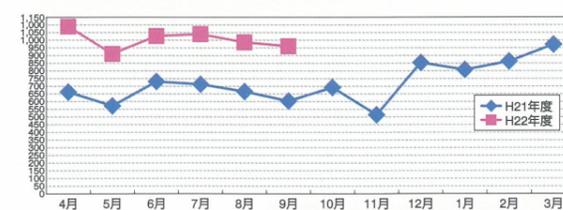
MSW(医療ソーシャルワーカー) 交代のお知らせ

平成 22 年 12 月 31 日付をもちまして柿坂佳央里が退職いたしました。当センターの地域医療連携室の初代 MSW として活躍してまいりました。長い間、皆様には大変お世話になりました。そして、新しく MSW を迎えましたので、ご紹介いたします。

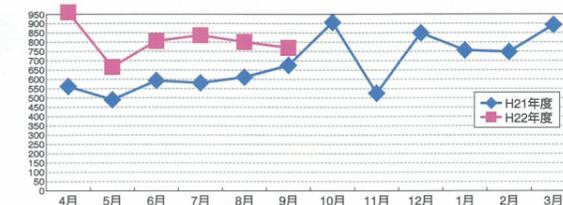


保村 勤子 (ほむら いそこ)
 地域医療連携室のソーシャルワーカーとして、この生まれ育った浜田、石見の地の医療と社会保険をつないでいきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

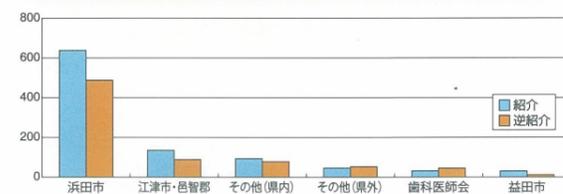
紹介件数の年度別比較



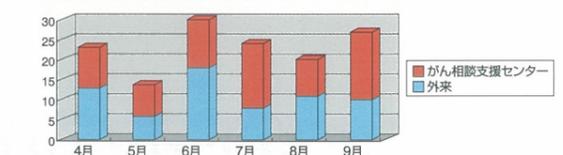
逆紹介件数の年度別比較



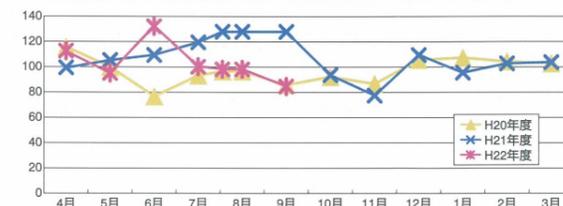
9月の診療圏別紹介・逆紹介件数



外来相談件数 (H22年 4～9月)



退院支援患者数の年度別推移



浜田医療センター 一周年記念講演 市民公開講座

日時 平成23年 1月21日(金) 18時～19時30分
場所 当センター 総合研修センター (2F)
演題 「がんのひみつ」
講師 東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部長 中川 恵一先生
 市民の方、医療関係者の方の参加をお待ちしています。

参加費、駐車場は無料です。

看護学校だより

皆さん学校祭に来ていただいて
ありがとうございました!!

11月2・3日と学校祭を行いました。色々と不手際もありましたが、たくさんの方のご協力をいただき、何とか終了することができました。

たくさんの方に来ていただき、本当にありがとうございました!!



西村社中による石見神楽



フリーマーケット



ハンドマッサージ

浜田駅北フェスティバルに参加しました

10月31日(日)に浜田駅北フェスティバルに参加しました。

看護学生の血圧測定コーナーを担当し、当日は、宇津浜田市長さんも血圧測定をしに来られました。

また、総勢 100 名程度の市民の皆さんも来ていただき、日頃の学習成果を発揮することができました!!



イルミネーションを点灯しました



11月24日(水)に宇津浜田市長さん、日野病院院長を始め、病院職員や看護学生、市民の方が参加して、看護学校南側壁面にイルミネーションを点灯しました。

1月10日まで点灯しています。冬の風物詩として、皆さんに楽しんでいただければと思います。

学生情報



きたる

平成 23 年 2 月 20 日(日)

に第 100 回看護師国家試験があります。

3 年生は 100% 合格を目指して、寝る間を惜しんで勉強をしています。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は猛暑でしたが一転、毎日冷え込みますね。寒さが苦手な私は、寒さ対策に余念ない日々を過ごしています。皆さんは寒さ対策にはどのような工夫をされていますか? 暖房・重ね着 etc 色々ありますが、温かい飲み物も効果的ですね。ちなみに今、私がハマっている飲み物は「しょうが」です。一口に「しょうが」といっても、黒糖しょうが湯・はちみつしょうが・ジンジャーラテなど最近色々種類があります。今冬中に某店のしょうがドリンクコーナーを制覇したいと思っているのですが……こう考えてみると寒い冬も楽しく感じ良いものです。みなさまも創意(?) 工夫で楽しく・温かく過ごし、冬を乗り越えましょうね。

編集委員 S